

2024年5月30日

2023年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 にじいろひろば

代表者・役職名 氏名 吉澤 和泉

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

母親のための母と子の子育てひろば ～すべての母親が笑顔になるためのかけ橋～

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

母親の笑顔になれる場所を作ること。近年言われている母親の子供への虐待、母親の社会から孤立、悩みや不安子育てへの負担が減るのではないかと考え、自宅を開放しボランティアスタッフを集め母親のための広場を作った。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

近年騒がれている母親からの虐待などは母親の社会からの孤立・悩みや不安、子育てへの負担がおこしているものが大きいのではないかと考え、母親の悩みや不安などを共有でき、母親が少しでもホッと出来る場所をつくること、母親同士のコミュニケーションをとれる場所を作ることとを目的としました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

週1回自宅を開放し、広場を開放。
ひろばでは、母親にワークショップや講座、母親同士の交流を深めてもらい、その間子供は保育の勉強をしたベテラン母スタッフたちが別の部屋で見守り保育をする。ひろばの最後には親子のコミュニケーションをとるため季節の行事や手遊び、絵本の読み聞かせなどを行う。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

ひろばに参加してくれた親子は200組以上、回数は40回を超え開催出来た。ひろばをひらくことで母親から「ストレス発散できた」「久しぶりに大人同士で話した」「こんな没頭してものを作ったのは久しぶり」「楽しかった！」とたくさんの声を頂くことができ、その後「自分の趣味の時間を作るようになった」「子供との向き合い方が変わった」「子供が自分で離れて楽しく遊んでるのを見て成長を感じた」など、母親は少しでも自分の時間をもつことが、子育てをしていくうえで重要だということがわかった。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

スタッフの安定の人数確保が最大の課題ではないかと考える。そのためにはボランティアではなく、きちんとした対価を払うことが大事ではないか。子育て支援という子供、親子に目がいきがちだが、母親に目が行き母親に笑顔になってもらうことが、子育て支援には大事なことではないかと思う。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

